



図 1 デスクトップにあるパワーポイントのアイコン。アイコンというのは、その中身を象徴する図形のこと。



図 2 パワーポイント PowerPoint が入っているか探す。四角で囲ったところがウィンドウのアイコン

PowerPoint の立上げ

ここではパワーポイントを使った研究発表用のポスターの作り方について説明します。まず、自分の（自宅の）パソコンにパワーポイントというソフトがあるかどうか確認します。図 1 のようなアイコンがデスクトップ（パソコンの基本画面）に出ていたら大丈夫です。そのアイコンをダブルクリックしてください。見つからなかったら図 2 のようにデスクトップ画面の左下隅にあるウィンドウのアイコンを左クリックしてパワーポイントが入っているか P の欄を探してみます。入っていたら、そのアイコンをダブルクリックしましょう。図 3 のような初期画面が現れます。この前にテンプレート集が出てくるようなら「新しいプレゼンテーション」を選択します。

アイコンが見つからない場合

パワーポイントが入っていない場合は、学校のパソコン室のパソコンを使って作成することにしましょう。学校のパソコンには PowerPoint が入っていますので安心してください。ただし、印刷が家ではできませんので、学校でモノクロの印刷になります。

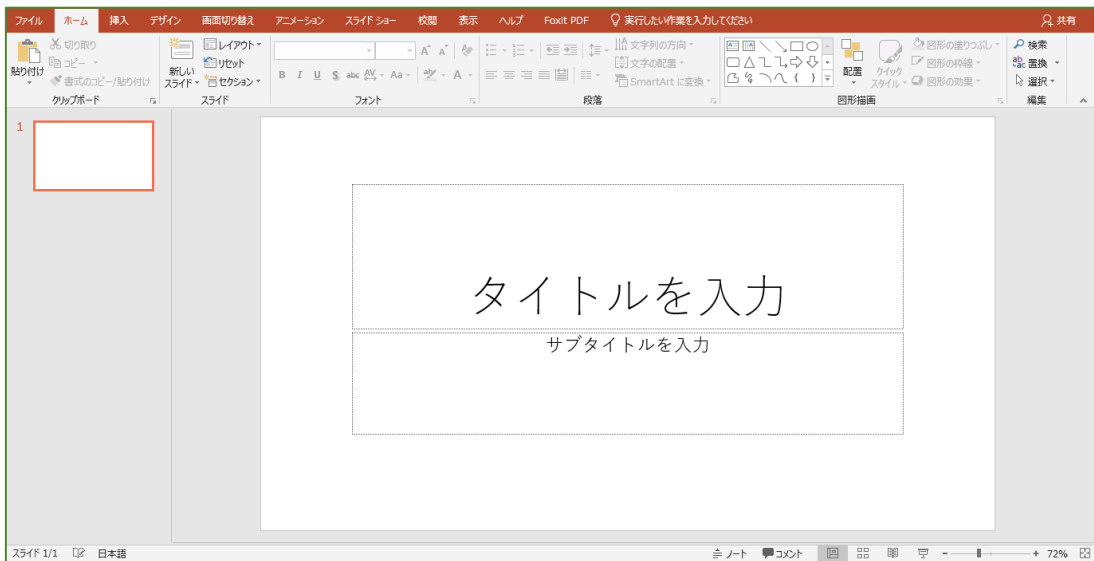


図 3 アイコンをダブルクリックするとこのような初期画面が現れる。



図 4 a

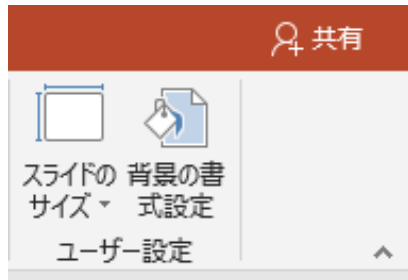


図 4 b

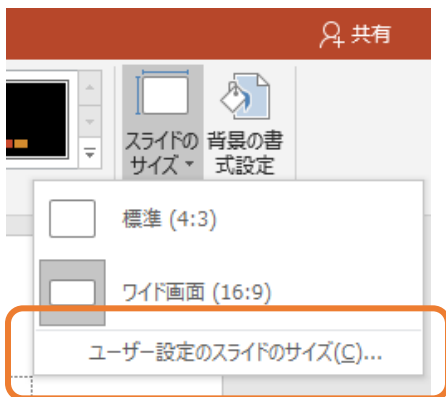


図 4 c

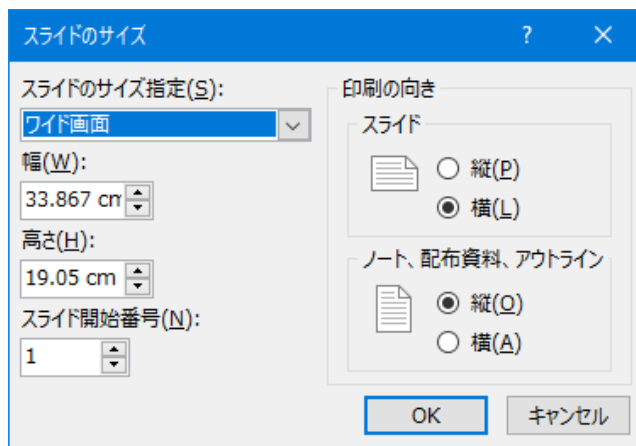


図 4

サイズを決める

パワーポイントは、もともと発表用の連続スライドを作る道具として開発されました。これが、1枚のポスター製作にも使われるようになった理由は、大きなポスターがとても簡単に作れるという点にあります。

まず、ポスターのサイズを決めておきます。

「きみろんⅢ」で7月に実施しているポスターセッションでは、ちょうど模造紙一枚が貼れるボードが各教室に20枚程度配布されます。このボードにポスターを貼り、ポスターセッションに臨みます。この時のポスターのサイズは

幅 74cm×縦 103cm

となります。これから作るポスターの大きさはこのサイズにしましょう。

図 4 a のように初期画面の上のメニュータブから「デザイン」をクリックします。出てきた画面の右上端にある図 4 b 「スライドのサイズ」をクリックすると図 4 c のメニューが出てきます。ここで「ユーザー設定のスライドのサイズ」をクリックして、図 4 の「スライドのサイズ」というダイアログを出します。

この幅を 74cm、

高さを 103cm

に変更し OK をクリックします。

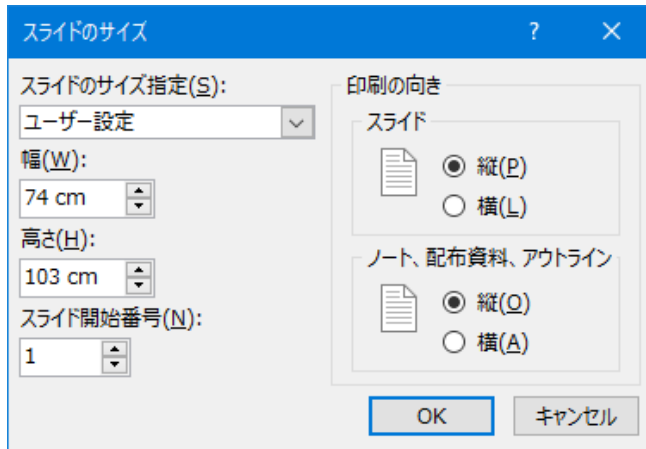


図 5

図 5 のように変更し OK をクリックすると、図 6 のようなダイアログが出てきますが、これはどちらをクリックしてもかまいません。とりあえず、最大化をクリックして図 7 のような画面にしましょう。(どちらをクリックしても同じ画面になります。)

画面右下の拡大縮小の所を見ると、ずいぶん縮小されていることが分かります。

つまり模造紙一枚分をかなり引いてみていることになります。

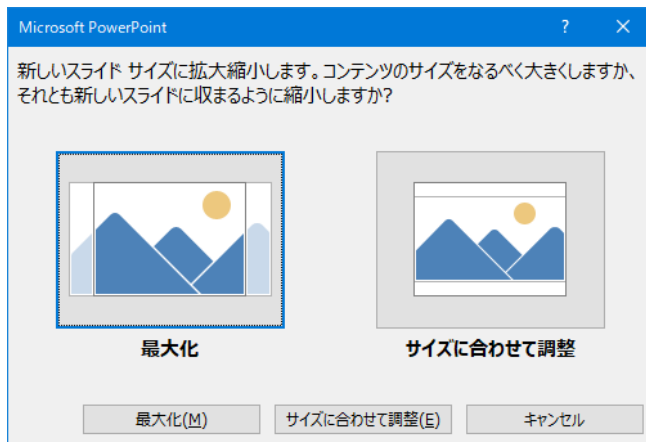


図 6

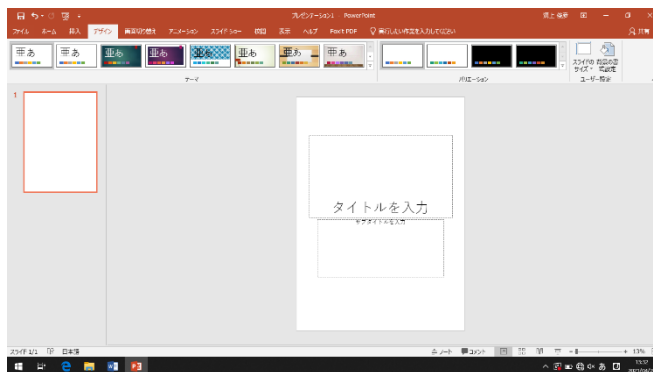
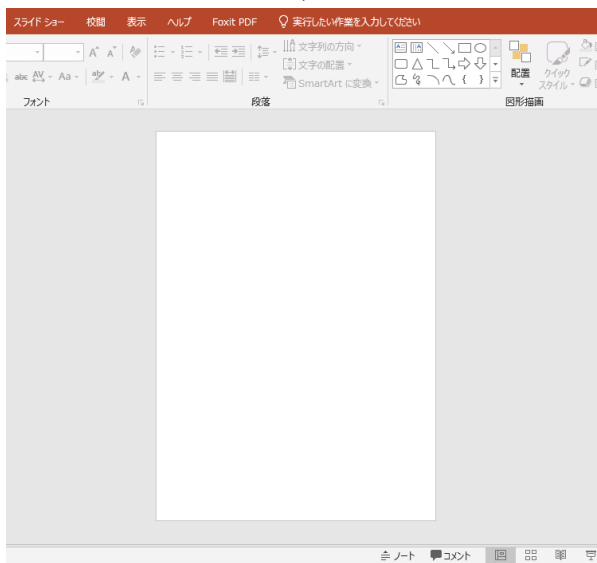
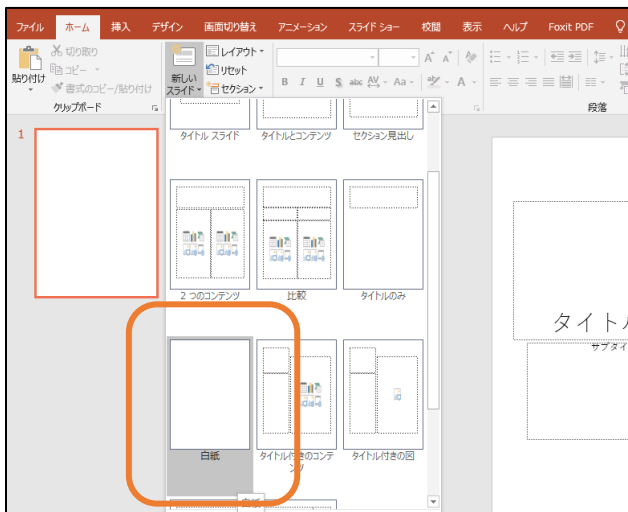
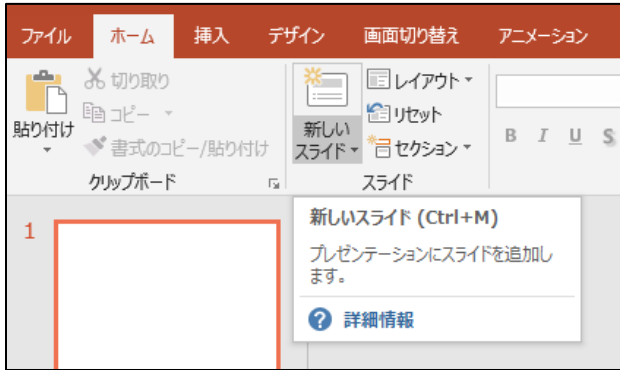


図 7



白紙のスライド

次に図8のようにホームタブから「新しいスライド」をクリックして、出てきたスライドの型例から「白紙」を選びます。この「白紙」の上に君の研究を伝えるポスターを描いていきます。

本来、デザインは自由ですが、守るべきことはあります。それは、論文の骨格となる**タイトル**、**要旨**（アブストラクト）**背景**（バックグラウンド）**疑問と仮説**、**方法**（メソッド）、**結果**（リザルツ（複数））**考察**（ディスカッション）**結論**（コンクルージョン）**参考文献**（リファレンス）のそれぞれを、人がポスターを読むという「視線の流れ」に無理なく配置することです。その上で、人が興味を持ちそうなイラストや図などのオリジナルなものを配置していきましょう。ここでは、スタンダード型を、テキストの『太宰治が16年間変えなかったもの』から製作してみることにします。

図 8

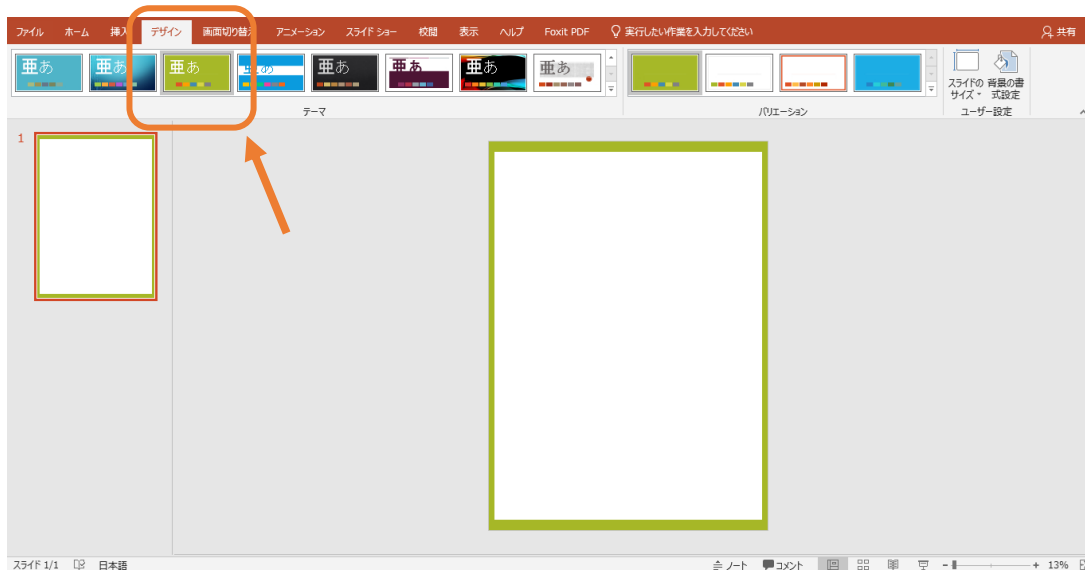


図9 デザインタブをクリックすると図9のようにいろいろなスライドの基本形とデザインが出てきます。自動で枠を作るものはそんなになりのですが、ここでは図の矢印で示した型を使いました。

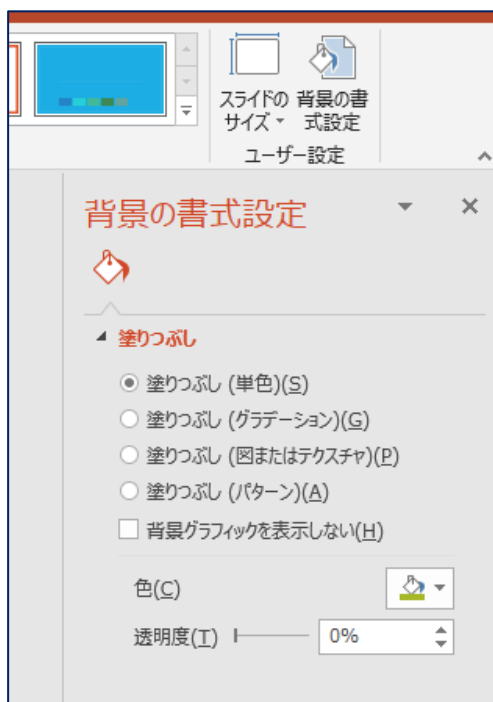


図10 この薄緑色を替えたい場合は、図8のように画面右上端にある「背景の書式設定」をクリックしてメニューを出し、塗りつぶし(単色)として色(c)の所のペンキの色から好きな色を選びます。

ポスターの枠

図9のようにポスターの外側に枠があるとポスターが大変作りやすくなります。

理由を述べます。印刷は、皆さんの家にプリンターがある場合は、そのプリンターを使いますが、多くの家庭のプリンターは、A4判の大きさと印刷するのが最大サイズになります。そこで、このような大きなポスターの印刷は、縦横4×4の16枚に分割してA4判用紙16枚に印刷し、それを学校で配布された模造紙の上に貼っていき、74cm×103cmのサイズにしていくことにします。この16枚を貼り合わせる時に、外枠があると位置を決めるのに大変便利なわけです。ここでは、「デザイン」のタブをクリックして薄緑色の見本を選ぶと、図7のようにポスターに枠が付き、図8のように研究内容に適した色に変えてみましょう。



図 11



図 12 ポスターの下書き原稿 字体や大きさは気にせず内容を考えながら作っていく。
 タイトル 背景 疑問・仮説 方法 結果 考察
 結論 参考文献 この一つ一つについてまとめていく。

一旦 USB に保存

ポスターの大きさの設定と枠づくりができれば、一旦君の USB とパソコン本体のディスクと同じものを保存しておきます。「ファイル」タブをクリックして「名前を付けて保存」を選び、自分の USB 中の「きみろんⅢ」のフォルダの中に「ポスター 1」といった分かりやすい名前を付けて保存しておきます。また、USB を紛失したりした時のためにパソコン本体のハードディスクにも「きみろんⅢ」のフォルダを作って保存しておきましょう。保存の仕方が分からない人は、仲間や家族の人に助けてもらいましょう。

ポスター下書き

次にポスターの下書き原稿を WORD で作ります。WORD を立ち上げ、新規の「文書 1」に「下書き原稿」と名前を付けて「きみろんⅢ」のフォルダに保存してください。いよいよここに、ポスターの原稿を書いていきます。Excel を使ってグラフを作った場合は、そのグラフもこのポスターに張り付けることになります。

「太宰治が 16 年間変えなかったもの」というポスターの下書きの例をこのマニュアルの最後に載せました。字体や大きさなどを考える必要はありません。中身の文章だけに集中しましょう。

特に参考文献の書き方はこの様式に従ってください。